

2016年(平成28年)7月11日(月)

# 平家物語めぐり

⑨

## 先人の想像力 妄想を刺激

### 義経 能登を飛ぶ (珠洲市)



華々しい勲功を挙げたのに、後白河法皇の陰謀もあって兄の源頼朝と不和になり、都落ちして奥州へ。源義経の生涯は、監督に嫌われ、GMに介入されて退団する、プロ野球やサッカーのスター選手みいだ。

「義経記」では安宅を経て俱利伽羅峠を越えた義経主従だが、能登半島の沿岸には、義経の訪れた跡が点在する。志賀町には、弁慶と力くらべをした「一太刀岩」、弁慶に囲碁で勝てず怒って碁盤を投げつけた岩「碁盤島」と、逃避行中らしからぬ伝承が残る。

さいはての地、珠洲市にも足跡は及ぶ。珠洲岬の沖合で海難を逃れた一行は塩津港から上陸。義経が平家の名宝「蟬折の笛」、弁慶が「守刀」を須須神社に奉納したといひ、現在も宝物館に収められている。猿女貞信宮司(元)によると、神社裏の山伏山には「義経の家来、常陸坊海尊が隠れ住み、時折人里に降りてきた」との伝説があるとか。

義経が奥能登に赴いたのは、この地に流されていた義父の平時忠に会いに行つたためとする説がある。その折に馬をつないだと言われる地は馬繰町と呼ばれ、現在も源氏の末裔と名乗る人がいるといふ。

平家を滅亡に追い込んだ義経に、「平家物語」は厳しい。壇ノ浦の戦いで捕虜となつた時忠は、命乞いで娘を義経に嫁がせるが、「皇后にするつもりだったのに、普通の人にするなんて」とぼやく。暴言癖は治らなかつた。美しくやさしい娘を義経は気に入り、頼朝に見られてはまずい時忠の機密文書を返してしまふ。これでは頼朝の信用を失つてもやむをえまい。

大谷町則貞の国道249号の崖下にある時忠一族の墓を訪れる人は、めつたにいない。やりたい放題な権力者の末路が、これが。

壇ノ浦で見せた「八艘飛び」のごとく、義経が能登を転々としたわけは？

郷土史家の西山郷史さん(69)は「明治に入ると平家が人気になり、各地でストーリーを作つていった」と説明する。別の説もある。義経に八艘飛びをさせた平教経が「能登守」だったから、という……。

先人の想像力が生んだ平家伝説は、今日も我々の妄想を刺激してくれる。

(井上秀樹)おわり